平成27年度　第15号

学校だより

下野市立南河内中学校
発行者　日下田　英彦
Ｈ２７．９．４

９月の俳句　　九月来る　元気戻りて　をりにけり
前田　卯生

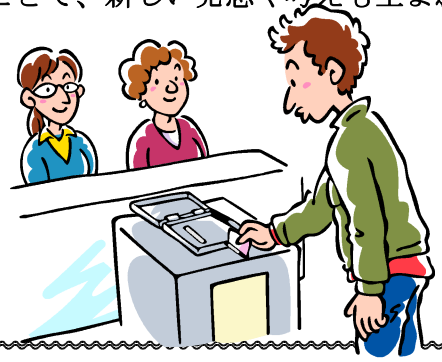
夏休み中の活動の成果をお知らせします。

１４号では結果だけしかお知らせできなかった、各種の発表をお知らせします。それぞれに代表としてのすばらしい内容でした。写真については、白黒印刷で不鮮明ですが、後日ホームページにも掲載いたしますので、他の項目ともどもご覧ください。

１〈栃木県少年の主張発表　下都賀地区大会〉　優良賞

「未来にむけて」　　大島菜央

「十八歳選挙権　若者が国を考える契機に」
そのような新聞の見出しに目がとまり、私もあと少しで投票ができると思うと嬉しくなりました。それは、ある経験をしたからです。
「街灯が少なくて、怖いんです。」
このような声が聞こえてきたのは、昨年の春に行われた交通安全教室の通学路点検の時でした。その言葉を受けて、生徒会が、「下野市子ども未来プロジェクト」の青少年育成市民会議の場で「通学路の暗い場所に街灯をつけてほしい。」と要望しました。その後、早速、学区の街灯の見直し、設置個所の点検が始まりました。そして、実際に街頭を取り付けてもらうことができました。小さな一言が大きな一歩へとつながったのです。
それだけでなく、自分たちの考え方を見直す機会にもなりました。それは、先生方の話から、街灯を設置するには、多くの書類や確認作業、様々な手続きが必要だということがわかったからです。簡単に設置してもらえる、と考えていた自分たちにとって、驚くことばかりでした。一つの街灯を設置するのに、多額の税金を使用する。このことは、わかっていたつもりですが、いざ、現実のこととなると、市民からの税金を使う側の、下野市としての大切な役目なのだと感じました。このように私たちの言葉を聞きいれ、動いてくださった下野市の青少年育成市民会議のみなさんには感謝の気持ちでいっぱいです。さらに、今回のことで、私は少数の意見を聞き、届けることの大切さを学びました。そして、今感じることは、社会も同じであるということです。
私の祖父は、何度か下野市議会議員に立候補してきました。祖父は「地域の人のために、そして、地元のためにできること。」を考えて立候補したと言っていました。同時に、「私がこうして選挙に出られたのは地元の人たちの支えがあったからだ。」ということも言っていました。励ましの言葉をかけてくれた人達、演説で地域を回る時に助けてくれた人達、そして、祖父に一票を投じてくれた人達。幼かった私にも、周囲の人たちの力が祖父を支える大きな力になっていたと感じました。
そして、そのような祖父の様子を間近で見てきた自分にとって、疑問に感じることがあります。それは、選挙での投票率の低さです。ニュースでは、選挙の開票結果と同時に、投票率の低さを嘆く声も聞こえてきます。そのような時、私は早く投票できるようになりたい、と思ってきました。せっかく、投票できる権利があるのに、なぜ投票をしないのか、疑問しかありませんでした。
今回、十八歳以上の選挙権年齢の引き下げが行わることで、高校生でも政治に参加ができる。これは、政治がもっと身近になるということです。私たちは自分が生まれ育った地元の良さを知っている分、そこがどんな状況か、気付くこともあるはずです。そして、誰が立候補しているかもよくわかります。
地域のために貢献しようとする人に一票を投じる。これは、私たちの声を政治に届けてくれるということです。また、私たちの視点で見た改善点を伝えることで、新しい発想や考えも生まれ、よりよい社会につながります。
これから私たちは、大人になるために様々な経験を積んでいきます。その中で、自分の生活だけに関心を持つのでなく、選挙を通して政治に参加するという自覚と責任を育てたいです。高齢化社会が進み、若者が少なくなっている今、大切なことは、自分たちの手で社会を作っていこうとする気持ちだと思います。まずは、世の中の小さな疑問や不安を率直に伝えること。そして、解決するために大切なことを見極め、社会の一員として大切な一票を使うこと。明るい未来を作るのは、私達なのだから。



２〈下野市広島平和研修派遣に参加して〉

平和研修をとおして　　早川　颯太

今回の広島への平和研修派遣は実に充実した三日間でした。今こうして当たり前に毎日生活できることの幸せを素直に感謝できる心になりました。いつもテレビで見る美しい広島の町並みや近代的な建物から、原爆が本当に投下されたとは想像できませんでした。今年は戦後七十年と聞き、七十年も前なのか、七十年しか経っていないのか、という不思議な気持ちになりました。そこで、実際に広島に行き、自分自身で戦争という事実を確認平和について考えてみたいという思いが強くなりました。そんな私の気持ちを整理してくれた貴重な研修でした。

一番印象に残ったことは、研修初日に伺った被爆者の方の体験談です。被爆当時十七歳だったと聞いて、今の私とあまり変わらないことにまずどきっとしました。やけどで皮膚が焼けただれたり、けが人の手当をしたり、けがをしたお母さんの手術も麻酔なしで、獣医さんが手がけたりしたそうです。まさに「生き地獄」だったという言葉が頭から離れませんでした。実際にお話に出てきたことが次に訪問した原爆資料館に展示されており、聞いたことが映像となって頭の中をまわっているようで怖くなりました。極限の状況で冷静に判断し行動することが、今の私にできるだろうかと不安にもなりました。これがまさに「生き地獄」なのだと思いました。

また、二日目の平和式典に参列しました。ここに集まる人々の多さや、戦時中戦ったアメリカ人やロシア人も大勢参列していることに驚きと同時に少しほっとしました。そして三日目に原爆の子の像に、全校生で折った鶴を奉納しました。奉納するスペースを見つけるのに迷うほどたくさんの鶴であふれていました。戦争や平和に関心をもっている人がこんなにいることを表しているようでした。

今回の派遣研修で学んだことは、あきらめなければなんでもできるということです。広島は最後までがんばって立て直そうとした人々の気持ちに答えるように木々も生え、見事に復興してきました。二つめは、日本は原爆によって甚大な被害を受けました。世の中に核兵器がある限り同じ被害を起こす可能性があります。決して同じ体験をする人々があってはいけないのです。戦争は二度としてはいけないし、核兵器をこの世からなくすことです。三つめは、新しい仲間との出会いです。過去の現実を受け止める時、恐怖感や落ち込むことがありました。しかし、共に学ぶ仲間がいてくれたことが何より心強かったです。

今後戦争体験者がいなくなってしまう時代がきても、戦争の恐ろしさ・残虐さを自分の口で伝えていきたいです。今ある暮らしが平和であることを認識して、当たり前と思うのではなく、当たり前の生活のありがたさに感謝しながら。

８月５日　広島平和公園

２０１５年広島

臼井　亜美

私は南河内中学校の生徒代表に選ばれ、平和研修派遣団の一員として、８月５日～７日に広島に行きました。当日までは期待の反面、不安もありました。でも出発の日の朝、校長先生が「臼井さんは肌が真っ黒に焼けるほどテニスをがんばり、鍛えているから大丈夫だよ」と声をかけてくださいました。私はその一声で元気になり、栃木を出発しました。栃木から広島へ向かう新幹線の中では、他校の生徒とトランプやしりとりをするなどして、すぐに打ち解けることができました。しかしこの後、いよいよ原爆の恐ろしさを感じることになります。

私達はホテルに着き、被爆者の方から話を聞きました。メモを取っていた私の手は、恐ろしさで震えが止まらなくなりました。話を聞いているうちに、私自身が原爆の恐ろしさを体験したような感覚になりました。私の中で一生記憶に残る体験だと思います。また広島平和記念資料館を見学し、原爆ドームにも行きました。そこには、焼けただれた人の皮膚など、想像を絶する資料が沢山あり恐怖に陥りました。

二日目の宮島では海がとてもきれいで感動しました。また奈良にしか鹿はいないと思っていたのですが、宮島にも沢山の鹿がいたので、とても驚きました。夜は灯ろう流しを体験しました。川一面に灯りが見えその様子は満天の星空のようでとてもきれいでした。

今回の平和研修では、色々な体験をさせて頂きましたが、一番感動的だったことは８月６日に行われた平和記念式典に参加できたことです。一分間の黙祷の時は、戦争の悲劇、恐ろしさが頭の中に浮かび胸が痛みました。また広島市長さんは平和宣言の中で、戦争のない平和な世界でいられるようにと訴えていました。私の心に残る言葉でした。

私はこの平和研修に参加できたことで戦争の恐ろしさ、平和の尊さについて、たくさんのことを学ぶことができました。また貴重な体験をさせて頂けたと思います。日本にも、七十年前、戦争があったという事実を自分の目や耳で確認することができました。そして二度と戦争が起きてはいけないという思いがとても強くなりました。

今後、戦争のない平和な世界が実現できるように祈り続けていきたいです。

3 〈関東ソフトテニス大会に出場して〉

僕は関東大会を通して、たくさんの人たちに支えられていたことがわかりました。“親”、“部員”、“部長”、“先生”に支えられました。その人達に感謝の言葉を贈りたいです。ありがうございました。

馬場祐希

多くの方に支えられ、関東大会に出場するとができました。県大会から関東大会まであまり時間がなかったのですが、精一杯練習をして大会に挑むことができました。県大会とは違う雰囲気で各都県の代表選手は皆強く見えました。今まで練習してきたことが出し切れたと思います。支えてくれた方々に感謝し、これからも張ります

藤沼龍生

美術部の皆さんがすぐに垂れ幕を作ってくれました。地域の方にも紹介することができました。

4　ＰＴＡ被災地訪問学習が行われました。

前号では、簡単な紹介だけでしたので、今回は参加した教頭先生に当日の感想と、写真を用意していただきました。校長は都合で欠席となってしまいましたが、貴重な体験の様子を聞くだけでも勉強になりました。参加されたみなさんは、ぜひ多くの方に伝えていただければと思います。

ＰＴＡ被災地訪問学習に参加して　　教頭　間中理恵

８月２２日（土）６：４５に学校を出発して宮城県松島へ行きました。松島湾の中の桂島へ船で渡りました。桂島は地震による地盤沈下や太平洋から押し寄せた大津波で家屋全壊、流出など大きな被害が出たそうです。

下の写真は、桂島南側の海岸です。手前左側には直径５０ｃｍほどのコンクリート製の柱が数本倒れています。右下の写真が柱の根元です。また、島の北側の崖が崩れていて、ブルドーザーなどの重機が動いていました。復興にはまだまだ時間や人手、費用がかかることを実感しました。桂島在住の方が私たちが乗った船に同乗し、震災当時やその後の話をしてくださいました。聞けば聞くほど、津波の恐ろしさを思い知りました。

今回、ＰＴＡ企画運営部と本部の役員の方々のおかげで、このような体験学習ができたことは大変ありがたかったです。「百聞は一見に如かず」は、本当のことであり、今回桂島で学習したことをＰＴＡや生徒の中で共有し、今後の生活にどう活かしていくかを話し合うことが必要であると強く思っています。このような体験活動が今後も続けられますように皆様の御理解をいただければありがたいです。

被災地の様子

被災地訪問学習に参加された方々

吹奏楽部　栃木県吹奏楽コンクール銀賞

千羽鶴奉納　原爆ドーム前で

お願い

学校だよりで、保護者の皆様にお知らせできる写真がありましたら、直接校長まで、またお子様を通してデータを貸していただければ助かります。よろしくお願いいたします。